

# 香港空港P546 西部エプロン 拡張工事

株式会社フジタ香港支店 香港空港P546西部エプロン拡張工事作業所 所長

**藤井 真**

Makoto Fujii



空港西側より、西部エプロンエリア全景



建設中の旅客用駐機施設および誘導路



建設中のトンネルランプ構造物

## 香港国際空港の紹介

一九九八年に運用を開始した香港国際空港（チェンブラックコク国際機場）は、総面積が一、二五五畝、全長が三、八〇〇メートルの二本の滑走路がある海上埋立空港であり、開港以来、アジア地区最大規模のハブ空港として、利用者は増加し続けている（年間利用者六、三〇〇万人、貨物取扱量四三〇万ト、二〇一四年）。

香港国際空港は、飽和する空港キャパシティ問題解決のため「二〇三〇年マスタープラン」を二〇一一年に公表し、既存空港内の遊休地であったミッドフィールド内での新コンコースビルおよび駐機施設工事、および本稿で述べる西部エプロン拡張工事を開始している。

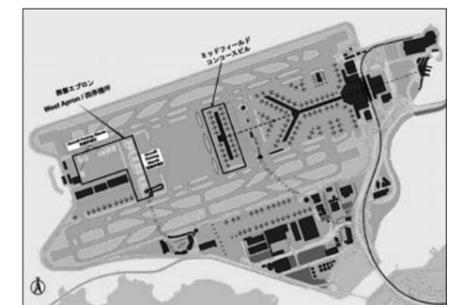
## 空港の拡張とフジタの関わり

当社は、第二ターミナル建設プロジェクトへの参画を皮切りに、香港国際空港の拡張工事において一〇件を超える建築・土木工事を手がけてきており、二〇一一年のミッドフィールド開発工事の土木工事を受注・完了し、現在、西部エプロン拡張工事を担当している。

## 西部エプロン拡張工事の内容

西部エプロン拡張工事は、空港西側エリア約

は、新規鉄道（MTR）工事や旧カイトック空港跡地開発工事、またはマカオ・珠海・香港大橋工事などメガインフラプロジェクトが進行中であり、労務や機材の逼迫度は深刻である。当工事においてもこの労務確保の点において苦労したが、ここまで駐機施設のオープン、トンネ



西部エプロン拡張工事位置図

五〇畝における駐機施設関連の一部更新、新設工事であり、二〇一二年に発注者である香港機場管理局より、当社とローカル会社の共同企業体で受注した。工事内容としては、旅客・貨物用駐機施設九機分、メンテナンス用駐機施設一〇機分の建設、滑走路下自動車用道路トンネル、ランプ工事一式、ジェット燃料配管・供給工事（全長一・一キロメートル）が主な工事内容である（拡張工事位置図参照）。本工事の特徴は、多くの工事を空港運営エリア内、もしくは隣接したエリアで実施するため、施工時間や安全管理・飛散防止策などの様々な制約に準拠するとともに、契約で規定されている部分引渡し計画に従って工事を完了させる必要がある。現在香港で

## 第三滑走路プロジェクト

香港国際空港では、既述したマスタープランの開通、ジェット燃料の供給について期日通りに部分引渡しを完了し、現在、残り最後の引渡し部分の工事を進めているところである。

香港国際空港では、既述したマスタープランにおいて、既存空港の北側に約六〇〇畝の埋立てを行い、二〇二三年までに第三滑走路およびコンコースビル、駐機施設の建設を完了する計画にしている。昨年十一月には環境アセスメントの承認を得たことから、現在、建設準備の段階に入っている。

## おわりに

香港政府は、二〇一四、一五年の施政方針の一つに、競争力強化のための国際ハブ推進の核としての香港国際空港の拡張（第三滑走路の建設）を掲げている。香港経済の今後の発展において重要な位置づけとされる空港インフラの拡張工事において、継続して工事をやる機会を得て、発注者の要求に応えることができるよう日夜奮闘している。残り僅かな工事期間であるが、期日どおりの工事完了を達成するとともに、今後も成長を続ける香港国際空港の建設において、発注者の信頼に応えていくことで最大限の貢献をしていきたい。